

## 米中枢同時テロから1年



折りづるや平和メッセージ記入に参加するニューヨーク市民たち

### ◆NYや県内各地で追悼式典

世界を震かさせた米中枢同時テロから一年がたった十一日、現地ニューヨークのほか県内の米軍基地でもさまざまな追悼式典が行われ、約三千人の犠牲者に祈りをささげた。ニューヨークでは川崎市出身の女性らが、鎮魂の思いを込めて千羽づるやちょうちんを作り、米海軍横須賀基地では世界平和を祈って桜を植樹、厚木基地では消防車などが行進した。一方で横須賀の平和団体は、反戦を訴える文書を横須賀基地司令官あてに提出、アメリカの報復攻撃を非難した。

### ◆ニューヨーク

ニューヨーク市内などアメリカ在住の日本人でつくるボランティアグループ「NY de Volunteer」は十一日（現地時間十日）、同市グリニッチビレッジのワシントンスクエアパークで、三百個のちょうちんに灯をともして米中枢同時テロとその後のアフガン空爆などの犠牲者を追悼した。

会場でメンバーら約三十人が千羽鶴づくりや手作りちょうちん三百個への平和祈念メッセージ記入を呼び掛けると、公園を訪れた人々は足を止めて「Stop the hate」「Love is stronger than hate」など思い思いに書き込み、午後九時ごろずらりと並んだちょうちんに点灯した。

グループ代表で川崎市出身の日野紀子さん（34）は「九月十一日の一日だけでなく、平和を願う気持ちをいつも持ち続けるのが大事。広島の被爆体験を風化させないなど、テロをきっかけに私たち日本人の問題も考えてほしい」とイベント参加者に訴えた。

九年ほど前にアメリカに渡り、現在ウェブデザイナーの日野さんは、ワールドトレードセンター内で勤務した経験を持つ。「事件の発生を境に冷たい人が多かったニューヨークの街で人々が助け合い、『自分が国をつくるんだ』という意識を持つようになった。しかし、その後のアメリカによるアフガン空爆の方がより悲劇であり、問題だと思います」と日野さん。「中枢同時テロ事件は大きすぎる問題だが、それに対して自分ができることをこつこつとでもやっていきたい」と話した。

同市内在住でエレメンタリースクール（小学校）教師（27）は「十一日は、クラスで子供たちと憲法の話や人間が持っている権利について考えたい」と話していた。